

平成 21 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471001022	事業の開始年月日	平成16年1月15日	
		指定年月日	平成16年1月1日	
法人名	有限会社 梨の実			
事業所名	梨雲ハウス平戸			
所在地	(244-0803) 横浜市戸塚区平戸町1156-1			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成22年2月15日	評価結果 市町村受理日	平成22年6月2日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・ご利用者の環境・状況など個性を大切にされた支援をこころがけています。
 ・職員の年齢・経験は様々ですが、事業所理念を共有し実践しております。
 ・豊かな環境の中、四季折々を肌で感じていただけるよう努めております。
 ・地域の方たちに支えられ暖かく見守られていることを強く感じています。
 ・職員からアンケートをとり、学びたいことを「梨の実塾」と言う名のもと定期的に勉強会を開催し技術面だけでなく職員の意識の向上に努めています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 SYビル2F		
訪問調査日	平成22年2月25日	評価機関 評価決定日	平成22年3月31日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

◆梨雲ハウス平戸はJR東戸塚駅よりバスで約6分、最寄停留場から徒歩3分という地の利のよさに加え、静かな住宅街に位置し、無花果、みかん、の果樹と共に、四季折々に収穫できる野菜畑がありボランティアの手伝いの下、入居者が手入れを楽しんでいる。
 ◆ホームの経営者と管理者、職員が理念を共有し利用者本位のサービス提供に取り組んでいる。
 ◆近くの3開業医の協力、指導の下(24時間対応)で家族の希望に添った看取り介護を行う事をホームの方針とし全職員で共有している。
 ◆経営者からは職員の一人ひとりが、きめ細かい介護をしてくれる。管理者、職員は経営者が良く話を聞いてくれるとの相互信頼の下、チームワークのよい「働きやすい職場」形成がなされていて、サービスの質向上に繋がられている。
 ◆従業員の希望の時間、希望の日に勤務可能とすることで、多くのメンバー登録を持ってシフトが生まれ入居者の希望に対応している。
 ◆重度化などによる介護限界を設けず、共に暮らし続けたいとの思いを経営者をはじめ全職員で共有している。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	梨雲ハウス平戸
ユニット名	幸水

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に繋がっている	<ul style="list-style-type: none"> 各フロアに理念を掲げ、常に職員が理念に添った支援が出来る体制作りをしています。 採用時の面接においても必ず理念の説明をしています。 	「この地はかつては梨畑でした。土、水、光という自然の中で巡り来る四季を受け止めながら実を育ててきた所です。ご利用者さんが過ごされて来た生活体験を大切に、自分らしく生きるための環境と家庭的な雰囲気の中で、ゆとりと生きがいの提供を心掛けたいと思います。豊かな共同生活を過ごして頂けるようにスタッフ一同努力してまいります。」と謳われた法人の理念を壁面に掲げ、採用時研修や会議などでも理念に触れ、共有して全職員が日常的にケアに活かすよう努めている。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<ul style="list-style-type: none"> 地域の中学校の体験学習の受け入れをさせていただいています。(21年度は2校) 地域のボランティアによるアクティビティの受け入れを行っています。 	町内会に加入して、地域の夏祭りや神社祭礼など催事に出来るだけ参加をして、ホーム梨雲ハウス平戸を知っていただく為の、交流に努めている。また、秋の梨狩り、秋刀魚の会(バーベキュー) その他、尺八演奏、園芸指導、花見の付き添いなど様々なボランティア支援を受けている。更に地域の中学生の体験学習の受け入れ(平成21年度2校)もして、地域交流を深めている。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<ul style="list-style-type: none"> 運営推進会議の場での認知症の症例・進行・転倒事故等の説明、薬剤師による「薬について」の講演の実施をしています。 		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<ul style="list-style-type: none"> 運営推進会議の継続的な開催を目指すことによって地域の方々、ご家族にたくさんの意見を出していただける会議にし、サービスの向上にいかせるような取り組みをしています。 	町内会長、民生委員、地域包括支援センター職員、家族、ホーム長、管理者、職員の参加のもと平成21年度は3回の開催で(5月8月11月に実施)ホームの活動報告、入居者の状況報告、今後の活動予定に加えて薬剤師を迎えての講演とホームから事故報告、(転倒、誤薬の報告)を行い防止対応策に付いて意見交換を行っている。結果は関係者を始めホーム内でも報告を行い、意見は検討の上、サービス向上に繋げている。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 県・市・区等の連絡会には必ず参加し、事業所の実情を伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいます。 	県、市、区の連絡会には必ず出席し、区主催の事業所連絡会では事業所の実情報告(空き室情報)など情報交換を行い、県協議会からの研修情報「遊びを取り入れた介護」などを受けて研修に参加し、サービスの質向上に取り組んでいる。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所の方針である身体拘束をしないケアの実践を心がけています。 ・危険防止の為、施錠についてはやむを得ず行っています。 	事業所の方針として身体拘束のないケアを掲げ、職員間に研修を始め会議席上で話すなど周知している。現在、幻覚、幻聴で屋外に飛び出す方が居て止むなく家族了解の下、玄関の施錠を行っている。職員が常に鍵を携帯して開閉を心がけ、他の入居者の外出の機会を増やすようにするなど入居者への負担軽減に努めている。各人の居室には鍵が付いていて各人の思いで、施錠をする方も見られるが、安全上職員による外からの開錠はできる。玄関施錠もなくしたいと考えている。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・虐待はしてはならないという信念に基づき仕事をして頂いています。 ・外部研修等にも参加し極力皆で防止に努める体制作りを心がけています。 		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・常に話し合いの場を設け密に連絡を取り合い活用できるよう支援しています。 		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<ul style="list-style-type: none"> ・契約時、又はその都度、説明・話し合いの時間を十分にとり、理解・納得を図っています。 		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議、又は面会時等でご意見を頂けるような雰囲気作りを心がけています。 ・頂いた意見は会議等で職員に伝え運営に反映させる努力をしています。 	利用者や家族の意見、要望の窓口を契約書、運営規定、重要事項説明書に明記して、契約時に説明をし、また玄関に掲示もしている。日常的な家族の来訪時やケアプランの打ち合わせ時にも、日々の暮らしぶりなどを伝えると共に、気軽に話し合える雰囲気作りを努め、家族の意見を直接にも聞いている。出された意見、要望等は月1回の全員参加のフロアー会議で検討の上、運営に反映させている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<ul style="list-style-type: none"> 各フロアに意見箱を設けいつでも誰でも、どのような意見でも入れられるようになっています。 会議においても皆が意見を言える雰囲気づくりに心がけています。 	日頃から管理者は職員の声に耳を傾け、良く話を聞き、意見を聴く努力をしている。月1回のフロア会議で各職員から意見を聞くことと、各フロアに意見箱を設置し、意見が述べられるようにしている。実施採用された意見の事例として、「ホームのごみ収集場のごみ出しの方について」、従来手前に漫然と置かれていたごみ出しを、分別ならびに奥から順序よく置いて行く事を表記し改善している。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<ul style="list-style-type: none"> 個々の職員の生活スタイルを考慮し（時間帯・時間数・日数）環境・条件の整備に努めています。 日ごろより職員の確保に努め、緊急時等の対応に十分応えられるように努めています。 		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<ul style="list-style-type: none"> 外部研修の参加の呼びかけを行い、出席者は報告を兼ねてフロア会議等にて話していただいています。 定期的な勉強会を開催し出席できなかった職員にはDVDを配布し共有することに努めています。 		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> グループホーム協会等の説明会をはじめ、交換研修等にも積極的に参加し現場での質の向上に向けた取り組みをしています。 		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<ul style="list-style-type: none"> ご家族から出来る限りの情報をいただきサービスに努めています。 ご利用者の表情・行動から気持ちを推しはかり、寄り添った関係作りに努めています。 ご利用者に負担にならないよう距離を保ちつつ、見守りながら安心・安全を確保するための関係作りに努めています。 		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・ご入居にあたり、ご家族とは時間をかけ話し合い、要望に耳を傾ける努力をしています。 ・初期の段階でホームとして出来る事、出来ない事を明確にお話しています。 ・小さな変化でもご家族にお伝えし安心していただけるような関係作りに努めています。 		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・ご入居前に数回のアセスメントをさせていただいています。十分な話し合いの中から必要としている支援を探すことに努めています。 		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者の生活の中での希望・願望に耳を傾け、同じ位置関係での生活を築いています。 ・食事を共にして一緒に味わい楽しい場を共有しています。 		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・ご家族との信頼関係を築きつつ行事の参加及び協力をしていただいています。 ・ご家族としての絆を大切にいただけるよう時間と空間の提供に努めています。 		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・日ごろより面会を受入れ外出・外泊等、自由にしていただいています。 ・ご利用者の愛用の衣類・物品等を身近に置いていただいています。 	<p>家族や知人、親戚の方との面会や外出は自由に行われている。又、以前に住んでいた団地の友人に面会に行かれる方、毎日曜日に教会に行かれる方、昔からの行きつけの美容院に今も通われる方、などの事例があり人間関係を保ちながら地域に暮らし続ける事へ支援がされている。</p>	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者同士の関係性を把握し、皆が集団生活の中で円滑・快適に過ごしていただけるような支援に努めています。 ・ご利用者の孤独感や不安感からおこる争いごとも、職員が間に入ることにより温かく受け止めています。 		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・退居された方、そのご家族にいつでも立ち寄っていただける環境を整えています。（ご家族の行事参加・ホーム来訪等） 		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	<ul style="list-style-type: none"> ・誕生日会は個別に行い、大切なひと時と受け止めていただけるようにしています。 ・言葉だけのコミュニケーションではなく、ご利用者が理解できる方法を考えています。 ・言葉はもとより、言葉にならない思いを汲み取る支援を心がけています。 	入居前に利用者本人や家族から生活暦や意向を聴き、入居後は利用者に関わたり、声かけや観察から、利用者の思いや意向を把握する事に努めている。家族とのタイアップ支援で毎月2～3日帰宅し、ご主人との食事、買い物など家庭生活を楽しんでいる事例や、自室で花を育て、毎年の開花を楽しんでおられる方、又表現が出来ない方には日頃の接しからの思いの汲み取りによる寄り添いなど、申し送りやカンファレンス等で現在の意向等を把握共有し、対応している。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・入居時のアセスメントによる情報収集をはじめとし家族のお話、希望をもとに（含：看護サマリ）会議等において把握する努力をしています。 		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の申し送り・連絡ノート・朝礼ノートを活用し職員全員が把握できるよう工夫をしています。 ・著しい心身状態の変化については「生活状況表」をつけ時間毎の経過を把握しています。 ・職員間のディスカッション等における現状の把握に努めています。 		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者・ご家族のお話をお聞きし希望・要望を取り入れた介護計画の作成に心がけています。 ・介護計画作成時には多くの職員が関わり話し合いを行っています。 	日頃の観察会話から、利用者の変化や気付きを毎朝の申し送り時に報告し「～したい」という気持ちを大切に、本人の望む生活、意欲を引き出せるよう家族、職員、で意見・アイデアを出し合い共有し、計画を立て介護計画に反映させている。介護計画の見直し時期、手順、開始間もない人の対応は基本6ヶ月サイクルで中間3ヶ月に見直しをしている。急変時には都度見直しで対応している。入居間もない方には暫定プランを立て1ヵ月後にケアプランの策定を行い以降は通常サイクルで介護計画を策定している。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・介護日誌・個人ケース記録等の読み込みの徹底を目指しています。 変化があった場合はボードへの貼りだし、連絡帳の活用等周知に努めています。 ・カンファレンスにおいて職員の介護の統一を図っています。 		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・敷地内の畑に触れていただいたり、事務所で飼っている猫とのふれあい、蛍の鑑賞の中から喜び・優しさ・楽しさ等を感じていただけるよう支援しています。 		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のボランティアの方々との協力のもと、尺八・菜園・車椅子の保守点検等様々な面で関わっていただいています。 ・多くの方々の関わりから安心・安全・豊かな暮らしが出来るよう努めています。 		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・入居時にご家族の希望に添った医療機関での受診を支援しています。 ・常に受診状況を把握し、ご家族不在における対応にも応えられるよう努めています。 ・緊急時の相談・指示をいただける、かかりつけ医との信頼関係を築き適切な医療を受けられるよう努めています。 	利用者の希望により在宅時からのかかりつけ医の継続診療は現在2人が継続診療を受けている。ホームとしては利用者の急変に備えて、近くの開業内科医3医院に、24時間相談対応をお願いして、常に受診結果を家族と共有把握して、家族の不在時にも対応が出来るようにしている。提携病院（戸塚共立第2病院）ならびに近くの3開業医（菅野、さいとう、半田、内科医院）より緊急時には適切な指示が得られるよう信頼関係を構築し利用者が常に適切な医療を受けられるよう支援をしている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の看護師の方に関わっていただき、必要に応じて訪問していただいています。 ・精神科受診のご利用者の中には定期的に訪問をしていただきながら、その時々状況を共有しています。 		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・入院時には「ADL表」をお渡ししています。 ・入退院時の医師の説明には同意をいただいた上、同席させていただいています。 ・入院先への面会等の中から看護師による情報収集に努めています。 		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・ご家族の思いを基にし、主治医・職員三者による共通意識の共有に努めています。 ・きめ細やかな確認作業の中から相互の信頼関係の構築を心がけています。 	早い段階から本人、家族との話し合いに加え、家族、職員、主治医の三者による話し合いを繰り返し行うことで、事業所が行える事を三者共通の認識として共有し、主事医の協力の下、重度化及び終末期に向けた対応を行っている。ホーム全職員が現、対応についての考えを共有して、1人の看取りの経験を持っている。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	<ul style="list-style-type: none"> ・救命講習受講を事業所として呼びかけ多くの職員が受講できるよう働きかけています。 ・「勉強会」において実践力を身につける努力をしています。 ・急変時の連絡網の作成及び職員の確保に努めています。 		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・消防署の指導の下、年2回の避難訓練・防災訓練を行っています。 ・近隣の方々へ協力の呼びかけも行っていきます。 	消防署の指導の下、年2回の避難訓練・防災訓練を行っている。1回は隣接のホームと合同の訓練を行い、職員がモデルになってベッドから直接床に下ろす方法などの訓練も行っている。自治会や運営推進会議などを通じ、ホームがしてもらえること及びホームが地域に出来る事の役割などを説明して、近隣の方々への呼びかけも行っている。災害時非常食及び備品の備蓄は実施の方向で検討中。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・誇りやプライバシーを損ねることがないように会議・研修等にて職員の意識の徹底に努めています。	人生の先輩として、入居者一人ひとりの人格と誇りやプライバシーを損ねる事の無いよう、会議や研修などを通じて職員に徹底している。新人には先輩職員から利用者への接し方などOJTで学ばせている。トイレの誘導は他人に気付かれない心配りと、脱衣行為は人目に付かないように配慮した声かけ等全員で共有している。	今後の継続	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・職員の一方向的な働きかけでなく、ご利用者の意思・希望により、可能な方には自己決定していただけるよう働きかけています。 ・分かりやすい言葉かけに努めています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・ご利用者一人ひとりのペースを大切にされた対応を常に心がけた支援をしています。 ・体調を考え起床や食事時間をずらすなど個々のペースを大切にしています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・職員主導でない、その人らしい「おしゃれ」を楽しんでいただけるよう支援しています。 ・鏡等を身近に置くなど環境づくりに心がけています。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・食事を楽しんでいただけるようフロア内に一日のメニューをボードに書いたり、食材の配達時にも積極的にお手伝いをしていただくなど様々な面で楽しんでいただけるよう工夫をしています。 ・可能な方は配膳・下膳のお手伝いをしていただいています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食事・水分表を作成し職員それぞれが把握できるようにしています。 ・個々の状態に合わせた食事形態を取り入れています。(キザミ・ミキサー・トロミ等)		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後、一人ひとりにあった口腔ケアの実践に努めています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	・可能な限り日中はオムツの使用をしない支援をしています。 ・排泄のサインを見逃さないようトイレ誘導に努め、立位の取れない方でも二人対応でトイレでの排泄に努めています。	一人ひとりの排泄パターンとトイレサインを記録して、全職員で把握していて、朝食後の排便しやすい時間帯に、タイミングを見計らったさりげない言葉かけでトイレ誘導が行われている。立位の取れない方にも2人対応でトイレ誘導をして、また失敗した場合でも回りの方に気付かれない配慮をしながら、トイレでの排泄の自立に向けた支援を行って日中オムツのない生活を目指している。便秘対策として繊維の多い食物の摂取と水分補給、体操を行って対策に心掛けている。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・排泄表を作成し食事・水分摂取等バランスに配慮し自然な排泄を促すことに努めています。 ・毎朝、個々のご利用者の状態に合わせた体操をしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	・ご利用者の状態に応じて柔軟に対応しています。 ・身体の状態に応じてリフト浴で対応します。 ・季節感を味わっていただいています。(菖蒲湯・ゆず湯等)	入浴については一応週3回の決まりはあるが、利用者の体調や希望を確認して対応して希望の方には毎日でも対応している。入浴が好きな人が多く、季節ごとの柚子湯や菖蒲湯なども対応して入浴が楽しめるように工夫をしている。嫌がる人には決して無理強いせず、タイミングを見計らった言葉掛けで誘導、体の不自由な方はリフト浴を行っている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・一人ひとりの体調、状態を考慮、把握し安眠・休息の方法を話し合い、実践に取り組んでいます。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・配薬表を作成し服薬の目的・用法・効能が確認できます。 ・薬の変更があった場合、一時観察する為に「生活状況表」を用い変化を見逃さないようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・掃除・洗濯・片付け等、関わっていただけるよう声かけをし、日々のアクティビティでの気分転換を考え楽しんでいただいています。 ・「尺八の会」「フラダンス」等楽しめる機会を作っています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・お天気の良い日は、戸外で体操・お散歩等にお連れしています。 ・ご利用者の希望を取り入れ外出支援に努めています。（お買い物・外食等）	天気の良い日には利用者の体調をみて、希望を聞いて決して無理強いする事無く、菜園や近くの公園への散歩に出かけ、体操なども行い、時には駅周辺の商店街での買い物や、レストランで外食も行っている。車椅子の方の、外出支援としてドライブも行っている。利用者の中には定期的に自宅外泊を行っている方や他施設のご主人の面会に出かける方もいる。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・入居時、又はその都度ご利用者・ご家族との話し合いから所持・管理し、外出時等希望に応じて物品の購入を楽しんでいただいています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> 希望される方は制限なく支援しております。 年賀状・クリスマス等時期に応じて職員がお手伝いし、ご利用者の思いの実現に心がけています。 		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> 居心地の良い共用空間を提供できるよう心がけています。 月2回のフラワーアレンジにより季節のお花を楽しんでいただいています。 季節ごとに作品と一緒に作成し楽しんでいただいています。 	明るく採光の良い居室は続きに畳のスペースも設けられていて、全体的にゆったりとしている。空気清浄機、テーブル、椅子、ソファが置かれてくつろげる空間になっている。壁面には利用者によるパッチワーク作品、行事時のスナップ写真、絵画が飾られ、季節を感じさせる花も生けられて居心地良く過ごせる様に工夫がなされている。スナップ写真は家族来訪時の話題にして希望の方には提供している。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> 思い思いの場所で過ごしていただいています。 体調・状況に応じた居場所を提供できるよう努めています。 		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> 居室には使い慣れた馴染みの物、安心感のある物等自由に持って来ていただいています。 一人ひとりの個性を考え、より居心地の良い空間を提供するよう工夫をしています。 	居室にはベッドをはじめ整理ダンス、花瓶、人形など使い慣れた物と家族の写真や、趣味で描いた絵などが飾ら、それぞれの思いに合わせた設えで居心地良く過ごせる様に工夫がされている。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> 建物内はバリアフリーです。 廊下・トイレ・浴室には手すりを取り付けてあり、安全に配慮しています。 時計・生活ボード・献立表を置きメリハリある生活の場になるよう心がけています。 		

目 標 達 成 計 画

事業所

梨雲ハウス平戸

作成日

平成22年2月15日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	40	テーブルを拭いたり片付けたりはしているが食事作りに直接関わることがない。	職員と一緒に関わる事で生きがいや皆で生活しているという意識、関係性が出来る。	時間をかけ、声かけ等心がけ手作りおやつに取り組む。	長期
2	25	・戸外へ誘導した後の安全確認（2Fの為） ・敷地内の他G・Hや近隣地域との連携。	災害の対応を把握しそれに備えることで日々安心して暮らしてもらうことが出来る。	・定期的に防災訓練を行う。（3/10に実施） ・災害時のマニュアルを作る。	一年
3	49	身体の状態より外出支援が難しい。	・一人ひとりの希望に添った外出支援をする。 ・家族との連携 ・地域の方々の協力体制	ボランティアの方々と家族の話し合い等で連携体制を作る。	2010/6/2
4	43	尿意・便意が不安定な方々に対し排泄管理の失敗がある。	・排泄の失敗を減らす。 ・自信を持ち排泄の自立を促し生活する事ができる。	・排泄のサインを見逃さない。 ・定期的なトイレ誘導。 ・排泄の仕方が分からない方には職員が付き添い見守る。	長期

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

事業所名	梨雲ハウス平戸
ユニット名	豊水

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<ul style="list-style-type: none"> ヘルパー室の目に付く所に、理念を掲示しています。又、新職員は入社時に管理者より研修の場において伝えています。 日々の生活の中にも理念にそった支援を行っています。 		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<ul style="list-style-type: none"> 散歩時やホームの前の道路を清掃している方とは、お礼、挨拶等日常的な会話の中で馴染みの関係になっています。 地域のボランティアの方々に支えられて獅子舞・梨狩り・さんまの会などの行事が行われています。 		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<ul style="list-style-type: none"> 地域の高齢者のボランティアグループの訪問時、ホーム内での生活の様子を見ていただき、ご利用者と接することにより認知症への理解をしていただいています。 地域の中学生の「認知症を知る体験学習」に毎年協力しています。 		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<ul style="list-style-type: none"> これまで3回の運営推進会議を開催し、段々とご家族の参加も増え、いろいろなご意見・希望等の話し合いの場となっています。 		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 県・市・区の連絡会には出席し、行政への当ホームとしての取り組みなどの情報提供など、共に取り組んでいけるよう行っています。 		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・事故防止を理由に身体拘束はしていません。 ・パニック・幻聴により屋外に飛び出す方がおり、やむを得ず玄関施錠しています。（ご家族了承済み） ・職員が常時鍵を携帯し、不自由な思いをさせないよう、外出の機会を多くしています。 		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・入浴時等、身体に変化があるか（痣・傷）観察しています。 ・言葉の暴力に対してもフロア会議で確認しています。 ・対応の難しいご利用者については一人で抱え込まなよう、会議の中で皆で繰り返し話し合っています。 		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に成年後見人制度を活用されているご利用者があります。後見人の方と接する事により資産管理、入院等手続きなど学ばせていただいています。 		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<ul style="list-style-type: none"> ・契約時に重要事項説明を丁寧に行い、当ホーム出来る事・出来ない事を分かりやすく説明しています。 ・契約・解約の際にはご利用者・ご家族の不安や疑問に答えられるよう、話し合う時間を持ち、理解していただけるよう努めています。 		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・契約の際、外部と内部の苦情窓口を説明し連絡先を玄関の見やすい所に掲げています。 ・ご家族の面会時・ケアプランの打ち合わせ時など会話の中で何か困っている事・要望など吸いあげる努力をしています。又、運営推進会議等ご家族間で話し合う機会を設けています。 		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・月一回の梨の実会議にて各職員の意見・提案・思いを拾い上げて話し合っています。 又、月一回のフロア会議で意見箱など、自由に意見を述べられる機会をつくっています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・個々の職員の生活スタイルを考慮し（時間帯・時間数・日数）環境・整備に努めています。 ・日ごろより職員の確保に努め、緊急時等の対応に十分応えられるよう努めています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・定期的に（3ヶ月毎）梨の実塾を開き、職員の介護技術、知識の向上に努めています。 ・参加できない職員にはDVDを貸し出し共有を図っています。 ・外部研修にも参加し、フロア会議等で報告して皆で学ぶ機会を作っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	・他グループホームとの交換研修を通し、お互いの良い点・改善する事など参考にしています。 ・区の連絡会などに出席し勉強の機会を設けています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入居前のアセスメント時に生活のベースとしている場所に直接伺い状況を把握し、ご本人の不安な思いを受け止め、安心していただけるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・ご家族の立場に立ち、十分に時間をかけ、悩み・不安・要望を受け止めるよう努めています。 ・身体・生活の変化等を小まめに連絡等する事により話しやすく、相談しやすい関係を築くことに努めています。 		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者・ご家族が、困っている事、必要とする支援を見極め相互の話し合いを重ねることに心がけています。 		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・入居前の暮らしぶりや当ホームでの希望をお聞きし、出来る事をしていただきながら生活するよう支援しています。（洗濯たたみ・食事のメニュー記入等） 		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・面会時間の制限をせず、ご都合の良い時間に訪問していただいています。 その際、ご家族との情報交換に努め共に考えて支援するように努めています。 ・ご家族と相談のうえ、毎月外泊される方もいます。 		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・ご家族・知人・親戚等の面会・外出は自由に行っています。以前住まわれていた団地の友人に会いに行かれる方、日曜日に教会に行かれる方、行きつけの美容院に出かける方等、馴染みの関係を保っています。 		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の声かけにより、毎朝の体操・歌・言葉あそび等アクティビティーを一緒に楽しんでいます。 ・ご利用者同士の相性・個性を考えて座席を替えてみたり職員が間に入ることにより、良い関係を築けるよう支援しています。 		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・退居されたり、入院等している方の訪問・面会・手紙での近況報告等に努めています。 ・ホームに入居時に植えた「さくらんぼの木」が大きくなり、その様子を写真等にてお送りする事で関係を続けています。 		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	<ul style="list-style-type: none"> ・「家に帰りたい」という希望の強い方には、毎月2～3泊の外泊の中でご主人との食事・お買い物を楽しんでいただいています。 ・好きなお花を居室で育て、毎年花が咲くのを楽しみにしています。 ・言葉で表現できない方には本人の気持ちになり、寄り添う事に努めています。 		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・「清掃」をお仕事としてされていた方にはホーム内のお掃除をしていただき、お金が貯まる（架空）のを楽しみにしています。 		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・フロア会議・毎朝の申し送り等で一人ひとりの心身状態を共有し、食事・睡眠・排泄など生活のリズムを把握するよう努めています。 		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者の「～したい」という気持ちを大切に計画を立て、本人の望む生活・意欲を引き出せるよう心がけています。 ・ご家族・職員が意見・アイデアを出し合い共有しています。 ・毎朝の申し送り時に、変化・気づきを報告し、現状に即したケアを目指しています。 		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・介護日誌に様子・変化・気づき等を記録しています。特に重要・緊急を要することはボードに貼り情報の共有に努めています。 ・毎月ケアプランにそって実践されたか記録しています。 		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者・ご家族の状況を踏まえ受診・面会・外出・外泊等柔軟に支援しています。 ・畑での収穫を楽しんだり、事務所で飼っている猫とのふれあいを楽しんでいます。 		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員の方が時々面会に来られ、自宅の様子を伺ったり、地域のボランティアさんに畑の手入れをお願いしています。 ・定期的に「尺八」「折り紙」等のボランティアさんの訪問を楽しみにしています。 		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者・ご家族の希望を伺い在宅時のホームドクターの定期的な往診を引き続き受けています。 ・かかりつけ医とはご利用者の急変時にも24時間相談対応をお願いし、ご利用者を看取る事ができ感謝しています。 		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・入院当時の様子をよく知っている看護師の定期的な訪問を受け、病気・生活・薬と何でも気軽に相談しています。 又、急変時には主治医に相談、受診をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院時に、ADL表にて日ごりの様子・認知症の症状などを報告しています。 ・入院中、面会に伺い退院に向けての準備に努めています。（ご家族と共に主治医の説明を伺い、安心してホームでの生活にもどれる様にしています。）		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・ご利用者・ご家族の希望を伺い主治医の強力なサポートを受け、その都度話し合い方針の共有に努めています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・日中・夜間等の急変時のマニュアルは、目のつくところに掲示し、ケアプランに各ご利用者の対応、連絡方法等を書いています。 ・救命救急の講習は、順次受講しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・防災訓練は年2回実施しています。その内の1回はお隣のホームと合同で行っています。地域の消防団の協力もお願いしています。 ・職員がモデルになりベッドから直接、床に降ろす方法等、練習しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・誇りやプライバシーを損なわないよう否定せず、共有する気持ちを持って接しています。 ・トイレ誘導等、心配りに努めています。 ・脱衣行為はさりげなく着衣していただくよう声かけしています。 		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> ・アクティビティなど個々の希望を取り入れ、お誘いするようにしています。 ・お誕生日会等、個々の希望をすいあげ実現しています。 ・洗濯干し・たたみ等ご利用者の希望に添い、役割意識を持てるよう励ましています。 		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・体操・アクティビティ等の参加は強制ではなく、ご利用者の意思を伺い参加していただいています。 ・外出する時、希望を聞いたり、飲み物の好みを聞くなど、ご利用者の希望に添うよう努力をしています。 		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・常に清潔でいられるよう洗濯を小まめにしています。 ・入浴後等、更衣の際、職員と相談しながらご本人に決めていただいています。 ・希望に添って理容店にでかけたり、訪問理容を依頼して散髪をしています。 		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・今日の食事のメニューをご利用者に書いていただき皆の目の届くところに置いています。 ・食事の配膳や片付けは、出来る方にお手伝いして頂いています。 ・好き嫌いの希望をお聞きしたり、手の振るえ等ある方には食べやすい形状の食器を使って出来るだけご自分で召し上がれるよう考えています。 		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・食事のチェック表を作り個々の適切な水分・食事量を把握しています。 ・個々の状態にあわせキザミ・盛り付け・分量等工夫しています。 ・水分量の少ない方には、声かけや好物をお出しして摂取していただけるよう努めています。 		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・毎食後、声かけしご利用者の口腔ケアに努めています。 ・強要はせず、根気よく働きかけ無理のないケアを心がけています。 		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・便意・尿意のない方は時間を見計らい誘導しています。なるべく自立に向け一人でしていただくよう見守っています。 ・特に朝食後は、排便しやすい時間帯なのでトイレに誘導するように努めています。 		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・排泄のチェックを常時行い、個々のパターンを把握し水分摂取を進めたり、散歩に出かけたりして予防に取り組んでいます。 		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・お湯の温度等ご希望に添えるように努め楽しんでいただいています。 ・入浴拒否の方には別の職員が声かけなどして対応しています。 ・個々の状態に応じて見守り・介助を心がけています。 ・菖蒲湯やゆず湯などで季節感を味わっていた 		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・昼食後45分ほど居室で休んでいただく時間をつくっています。 ・昼夜間を問わず、明かりや室温・湿度・音など休息しやすい環境をつくるようにしています。 ・不安になられる方には側について安心していただけるよう、又、飲み物などを召し上がって 		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の薬の配薬表をつくり職員全員が目を通しています。 ・個々の状態に応じた服薬支援をしています。(下剤等) 		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの役割を果たしてもらい、それを励ますことにより役割意識・存在感の確認、生活のリズムの形成に役立っています。 ・近くのレストランでの外食は楽しみの一つになっています。 		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・他の施設で生活されているご主人に定期的に面会に出かけられます。 ・天気の良い日には、車椅子の方も含めドライブ・外食・散歩等に出かけています。 		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・お金を持っていないと不安な方には、お財布の中に現金を入れて持っています。 ・何かほしいとの希望がある時は一緒にお買い物に出かけています。 		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・季節の節目に林檎や漬物をご家族やご親族の方から届いた時は、ご利用者自ら電話でお礼を伝えられるようお手伝いをしています。 ・はがき等のやり取りについてもお手伝いをしています。 		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・廊下・リビングには、ご利用者の作品や行事の写真が貼ってあります。ご家族と一緒に話題の一つにしたり、希望される方には写真を差し上げています。 ・月2回フラワーアレンジを行い季節のお花を飾り楽しんでいます。 		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・和室にソファを置いたり、電気カーペットを敷いたりして快適に過ごしていただけるよう工夫しています。 ・個々の方々が時間・場所をご自由に選んでいただき過ごしていただいています。 		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・使い慣れた馴染みの物を持って来て下さるようお願いしています。 ・配置についても一緒に考え安全面を考慮し相談の上決めていきます。 ・ご利用者と相談し誕生日カード等飾り生活感を出しています。 		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> ・車椅子で自走できる方は見守りでトイレ・居室の行き来が出来る空間を作るように努めています。 ・個々の身体状況にあわせベッド・ポータブルトイレの位置を調整しています。 ・洗濯物干しさおの高さ等工夫しています。 		

目 標 達 成 計 画

事業所

梨雲ハウス平戸

作成日

平成22年2月15日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	常に出入り口の施錠をしている	心理的開放感を味わえるようにする。	入居者の安全を確保しつつ、裏の畑や玄関先のお掃除等、自由に出入り出来るよう開錠する時間をつくる。職員周知の中で短い時間から試すことを心がける。	1年間
2	49	ご家族の支援のないご利用者に対する個人的な外出の機会が少ない	本人の希望をかなえ生き生きとした、はりのある生活を送っていただきたい。	計画段階よりご本人に参加していただく。 行き先・目的・交通手段 職員の確保等 話し合いの中で具体的に決めて行く。楽しい思い出が作れるようにしたい。	1年間
					2010/6/2

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。